

## 中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： タンパク質翻訳機構のプロテオームレベルでの再考
2. 研究代表者： 今見 考志（理化学研究所 生命医科学研究センター ユニットリーダー）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、タンパク質の翻訳中の現象に着目し、新生ポリペプチド鎖が翻訳中に受ける修飾や制御因子の解明、新生鎖の異常による疾病の解明などを通じてタンパク質翻訳機構のプロテオームレベルでの解析を目指すものである。フェーズ1では、新生鎖プロファイルの *in vitro* および *in vivo* での解析技術の確立や翻訳中のリン酸化やアセチル化が新生鎖の安定化に関与していることを発見した点など順調に成果を上げている。これらの成果について責任著者として論文も着実に発表している。また、2023年に理化学研究所のユニットリーダーとして独立したことで独自の研究を展開している。フェーズ2では、変異による新生鎖のプロテオスタシス異常と疾患との関連やリボソーム脂質修飾の意義の解明に向け、一般性を議論できる実験系が構築されることを期待する。また、研究体制の強化が計画されており、研究が一段と加速することに大きく期待する。

以上